

米穀情勢について

令和8年7月

全国農業協同組合連合会 宮城県本部 米穀部



ZEN-NOH

食と農を未来へつなぐ。

令和7年産米の集荷・販売状況について（5月末_全国）

1. 主食うるち米の契約・販売実績（全国）

- （1）令和7年産主食用うるち米の販売計画1,934千㌧に対し、契約数量は1,802千㌧にとどまり、未契約数量は132千㌧に及んでいる。需給環境を踏まえると、契約数量の積み増しは極めて困難な状況にある。
- （2）直近の販売状況は、令和6年産比75%、令和5年産比75%と過去2年を下回る状況が続いている。
- （3）今後の販売進度が、**前年比60%で推移した場合**、令和8年11月以降の持越し数量は**712千㌧**になると試算され、これまでにない在庫水準となる可能性が高まっている。

【図表】 主食うるち米の契約・販売状況と持越し数量試算（5月末 確定値）

（単位：千㌧）

年産	販売計画 ①	契約数量 ②	未契約数量 ③=①-②	契約進捗 ④=①/②	販売実績							6月以降 要販売数量 ④=①-③	11月以降 持越し数量 ⑤
					～12月	1月	2月	3月	4月	5月	5月末 累計 ③		
7年	1,934	1,802	132	93%	280	86	105	140	131	97	840	1,094	712
6年	1,902	1,842	59	115%	390	111	113	138	192	184	1,127	774	139
5年	1,858	1,800	58	97%	362	98	133	166	182	173	1,113	745	101
7/6	102%	98%	224%	81%	72%	78%	93%	101%	68%	53%	75%	141%	514%
7-6	32	▲ 41	73	▲ 0	▲ 110	▲ 25	▲ 7	2	▲ 60	▲ 87	▲ 287	319	574
7/5	104%	100%	229%	96%	77%	88%	80%	85%	72%	56%	75%	147%	704%
7-5	76	1	75	▲ 0	▲ 82	▲ 12	▲ 27	▲ 25	▲ 51	▲ 76	▲ 273	349	611

注1：ラウンドの関係で合計が合わない場合がある。

注2：販売数量は、実出荷ベース。

注3：7年産販売計画は集荷見込にもとづく。

注4：6年産の販売計画、販売実績には条件備蓄米の数量を含む。

注5：7年産11月以降持越し数量は、6月以降の販売が前年比60%で推移した場合の数量。

令和7年産米の集荷・販売状況について（5月末_宮城）

2. 主食用等米の契約・販売実績（宮城）

- （1）令和7年産主食用等米（本県産）の令和8年5月末時点における契約実績は、うるち米・もち米合計で132,197トンとなっており、前年比は112%である。
- （2）販売実績（実出荷ベース）は、うるち米・もち米合計で51,074トンとなっており、前年比は90%である。
令和8年6月以降の販売数量（実出荷ベース）について、同様の出荷進捗を前提に試算した場合、11月以降に販売される持越在庫数量は37,000トンと、前年比で3倍近くになる見通し。

【図表】主食用等米の契約・販売状況・今後の販売見込（宮城・5月末）

（単位：トン）

	集荷見込数量			契約数量実績			販売数量実績			出荷 進捗 $j = i / c$	8年6月1日 以降 要販売数量 $k = c - i$	11月以降 持越（試算） l
	うるち米 a	もち米 b	合計 $c = a + b$	うるち米 d	もち米 e	合計 $f = d + e$	うるち米 g	もち米 h	合計 $i = g + h$			
令和7年産	130,477	1,720	132,198	130,477	1,720	132,197	50,367	706	51,074	38.6%	81,124	37,000
令和6年産	116,905	1,991	118,896	116,336	1,991	118,327	56,307	706	57,013	48.0%	61,883	13,064
前年同月比	112%	86%	111%	112%	86%	112%	90%	100%	90%		131%	283%

※7年産集荷見込：4/30現在の県本部取扱数量（直売・非共計除く）

※6年産集荷見込：前年同月日集荷実績（直売・非共計除く）

※販売実績：実出荷数量（通常出荷+一括決済実出荷）

本県においても全国同様の販売進捗の遅れが見られ、需給緩和の影響が顕在化している。

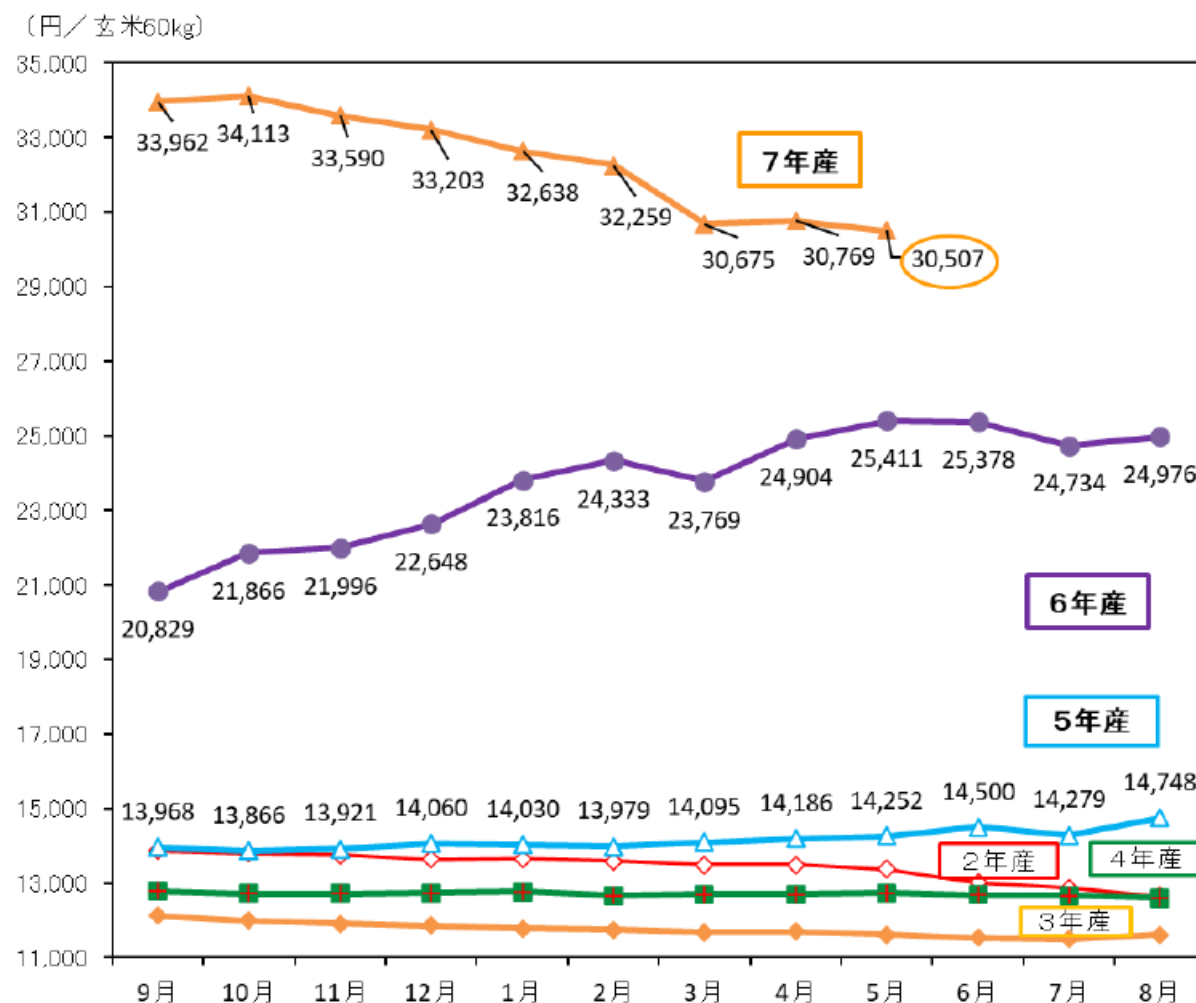
令和7年産米の集荷・販売状況について

3. 玄米価格の推移

(1) 農水相対価格

農水省が公表する7年産米の相対販売価格（税別・包装抜換算）は、7年10月以降下落傾向にあり、8年3月に大幅に下げたのち（前月差▲1,584円/60kg）、概ね横ばいで推移している。

【図表】相対取引価格の推移
(令和8年5月末)



(備考) 農林水産省公表相対価格にもとづき作成。包装代・消費税相当額を控除した価格。

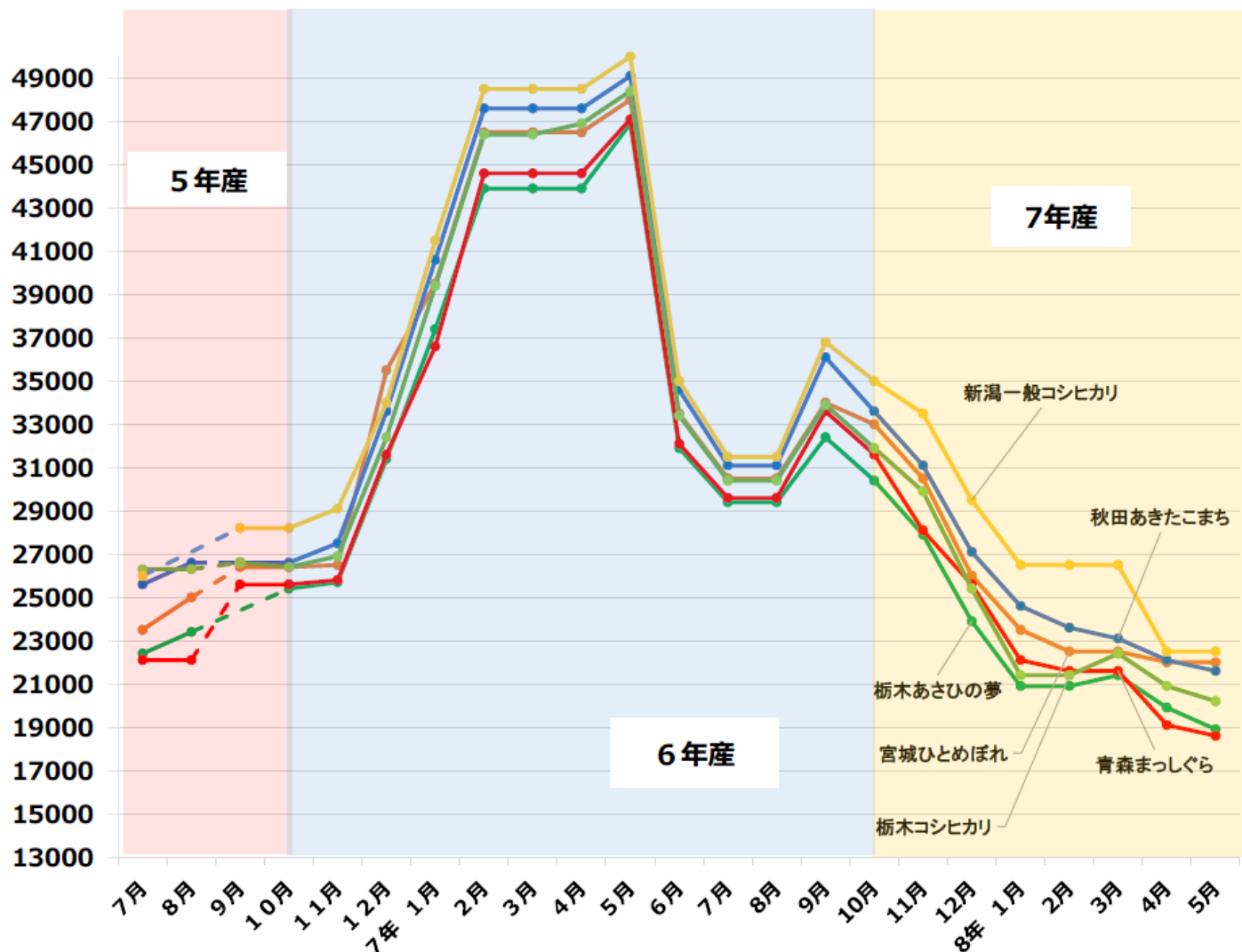
令和7年産米の集荷・販売状況について

(2) 市中価格の動向

市中相場は、出来秋以降下落を続けてきたところ、8年2月以降下落のペースが落ち着いていたが、4月で更に下落し、直近では19,000円～23,000円程度で取引されている。。

(単位：円/60kg)

【図表】5・6・7年産市中価格
(令和8年5月)



令和 8 年産米の作付意向について

1. 令和 8 年産米の作付意向（全国）

- （1）令和 8 年 5 月 20 日に農林水産省が公表した同年 4 月末時点の水田における作付意向によると、令和 8 年産の主食用米の作付面積は136.3万ha（対前年0.4万ha減）、備蓄米は2.7万ha（同2.7万ha増）となり、合計では対前年2.3万haの増加となった。
- イ. 平均単収（538kg/10a）で試算すると、令和 8 年 4 月末における主食用米の作付意向に基づく生産量は733 万トとなり、国の需給見通しにおける適正生産量（711万ト）を22万ト上回っている。また、備蓄米は約15万トに相当する見込みである。
- ウ. 令和 8 年産米の政府備蓄米買入札は、第 4 回入札までで公告数量208千ト全量が落札された。今後、一部主食用米を政府備蓄米に振り向ける予定。

【図表】令和 8 年産主食用米の主食用米、備蓄米及び戦略作物等の作付意向（8 年 4 月末時点、農林水産省）

年 産	主食用米	備蓄米	戦略作物								
			加工用米	新規需要米	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)	麦	大豆	合計
R 4 年産	125.1	3.6	5.0	20.6	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	45.1
R 5 年産	124.2	3.5	4.9	20.4	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8	44.5
R 6 年産	125.9	3.0	5.0	17.3	1.1	0.6	9.9	5.6	10.3	8.4	41.1
R 7 年産	136.7	—	4.4	10.8	0.9	0.4	4.6	4.9	9.5	7.5	32.1
R 8 年産 (4 月末時点)	136.3	2.7	4.5	9.2	1.0	0.4	3.3	4.5	8.8	7.0	29.4
対前年差	-0.4	+2.7	+0.0	-1.6	+0.1	+0.0	-1.3	-0.4	-0.7	-0.5	-2.7
1 月末時点との差	+0.2	+1.3	+0.1	-1.0	+0.1	+0.0	-0.8	-0.3	-0.3	-0.3	-1.6

最新の需給見通し

1. 需給見通し

- (1) 令和8年6月末民間在庫量は235～244万トと、既に現時点で、適正とされる180～200万トを超過している。
- (2) 令和9年6月末民間在庫量は272～296万トと、過去最大級の過剰水準まで増加する見通し。
- (3) 在庫は適正水準（180万～200万トン）を大幅に上回っており、販売低迷が続けば、過剰在庫の拡大による米価下落が懸念される。

【図表】今後の需給見通し（3/23 食糧部会、4月末作付け意向調査をふまえた中央会試算）

（単位：万玄米トン）

		3/23 食糧部会		4月末作付 意向・需要の 下振れを反映	
R 7 / 8 年	令和7年6月末民間在庫量	155		155	
	令和7年産生産量 B	747		747	
	備蓄米供給 B'	23		23	
	令和7/8年供給量計 C=A+B+B'	925		925	
	令和7/8年需要量 D	691～704	4月末作付け 意向を反映※	681～690	⇒直近のとう精量の 減少を反映 ※※
	令和8年6月末民間在庫量 E=C-D	221～234		235～244	
R 8 / 9 年	令和8年6月末民間在庫量	221～234	221～234	235～244	
	令和8年産生産量 G	711	727～733	727～733	
	令和8/9年供給量計 H=F+G	932～945	948～967	962～977	
	令和8/9年需要量 I	696～711	696～711	681～690	⇒7/8年の需要量を 反映
	令和9年6月末民間在庫量 J=H-I	221～249	237～271	272～296	

※ 8年産生産量の上限を作付け意向の平年単収換算733万トン、下限を備蓄米買入枠21万トンと備蓄米4月末作付意向15万トンとの差が全量主食用米から備蓄米に今後転換した場合（733万トン－（21万トン－15万トン）＝727万トン）として試算

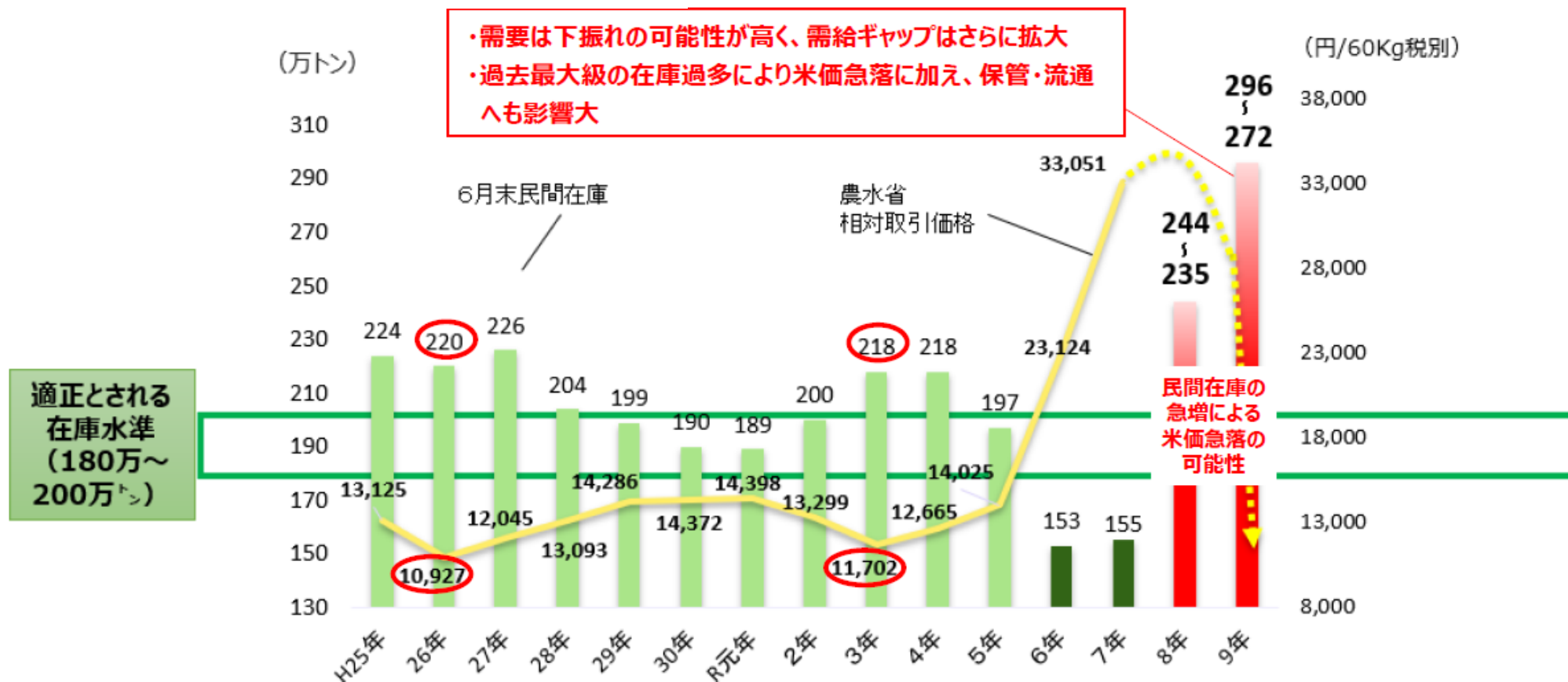
※※ 農水省が公表している4月末までのとう精実績をもとに、3月の食糧部会の際の需要量試算方法に沿って、年間需要量見通しを試算

最新の需給見通し

2. 価格見通し

- (1) 現時点の作付意向に基づく生産が行われ、かつ需要の減少を加味した場合、民間在庫は過去最大級の水準まで増加し、米価が急激に下落するおそれがある。
- (2) このため、周年供給事業や備蓄米の売戻しなど国の制度の積極的な活用や国への働きかけを強化するとともに、適時・適切な集荷価格の設定、卸売業者・実需者と連携した事前契約の積み上げ、消費拡大対策の実施などに取り組み、目指すべき生産者手取り水準の確保に取り組んでいく。

【図表】 相対取引価格と民間在庫の推移



※農水省資料より引用。なお、価格は農水省公表の相対取引価格より税・包装代を控除。

今後の対応について

1. 新聞広告掲載

- (1) 現状は極めて厳しい需給見通しにあることを機関会議等で組織確認のうえ、JAを通じて、以下のことを生産者や行政と認識を共有し、令和8年産米の需要に応じた生産の必要性について呼びかけを行った。
- (2) 水田活用直接支払交付金を活用した作付転換を進めるため、全中は日本農業新聞3回(4/4、4/29、5/16)にわたり広告を掲載。全農においても、河北新報などの地方紙11紙、全国農業新聞、農業協同組合新聞の専門紙2紙に6/7に広告掲載を行った。

【図表】新聞掲載広告

4 / 4 (土) 掲載済

4 / 29 (水) 掲載済

5 / 16 (土) 掲載済

6 / 7 (日) 掲載済

日本農業新聞 水田・畑作農業緊急特号

2026年4月 (令和8年)

生産者の皆さまへ 米価の大幅下落が懸念されます 再生産可能な農業経営の実現のために「需要に応じた生産」が必要です!

4月4日(土) 掲載済

令和7年産米の販売・在庫状況は悪化しています

令和8年産米の過剰作付けにより、米価が大幅に下落する可能性が高まっています

再生産可能な農業経営の実現のためにチェック!

生産者ひとりひとりが「需要に応じた生産」に取り組みましょう

日本農業新聞 水田・畑作農業緊急特号②

2026年4月 (令和8年)

幅広い米需要に対する安定供給・拡大を通じて 再生産可能な農業経営に取り組みましょう

需要を大幅に超える作付けにより、再生産可能な水準を回復する可能性があります

小売店などの特売事例

とうもろこしの実績

政府の主食用米の需要見直し

需要のある品目の生産を拡大しましょう

水田活用米穀の需要状況

米粉用米

輸出用米

日本米の需要は拡大

輸出用米

日本米の需要は拡大

輸出用米

日本農業新聞 水田・畑作農業緊急特号③

2026年5月 (令和8年)

米の需給は急速に緩和しています 生産者ひとりひとりの「需要に応じた生産」が重要です

主食用米の販売状況の悪化～倉庫に積み上がる在庫～

令和8年産米の需給に合った生産が実現されれば、7年産の在庫が解消し、販路確保はますます楽になります

令和8年産の作付け～私はこう取り組み～

地域全体で需給を見据えた取り組みを

米の安定供給に向けた決断

お米を生産する皆さまへ 需要に応じた生産を!

主食用米の過剰作付けの影響等により、大幅下落する懸念があります

米価下落に備え、経営安定のために、加工用米、新市場開拓用米、米粉用米等に作付け転換しましょう

令和8年産の作付意向

主食用米の作付意向は令和7/8年の需要量を29～42万トンに大幅に上回る状況です。

水田活用米穀の需要状況

加工用米

新市場開拓用米

米粉用米

令和8年産の作付意向

令和7/8年産米の29～42万トンに上回る

販売状況(集荷→卸)

販売状況は昨年と比べて急激に悪化しています。

令和8年産米の需給と価格の関係

米価は6月在庫と相関しており、過剰の経過を考えると、米価の大幅な下落が懸念され、再生産が困難な価格になる恐れがあります。

主食用米から水田活用米穀への転換の相談は最寄りのJAまでお問い合わせください。

JAグループ

日本農業新聞 掲載

東日本地方紙11紙、機関紙2紙掲載

【地方紙】

青森、岩手、宮城、秋田、福島、茨城、栃木、埼玉、千葉、新潟

【機関紙】

農業協同組合新聞、全国農業新聞

今後の対応について

2. 消費拡大への取組み

(1) 令和8年産宮城米プロモーション事業

国の「米穀周年供給・需要拡大支援事業」を活用し、TV-CMや広告、流通施策、新米発売イベントなどのプロモーション活動を展開しています。サンドウィッチマンを起用した情報発信により、宮城米の認知度向上と需要拡大を図るとともに、幅広い消費者へ宮城米の魅力を発信します。

【実施内容】

サンドウィッチマンを起用したTV-CM放映、新聞・雑誌・WEB等への広告掲出、量販店等と連携した流通施策、新米発売イベントの開催などを通じて、宮城米の魅力を発信します。



(2) プロスポーツチームと連携したPR活動

県内のプロスポーツチームと連携し、試合会場や各種イベントを活用した宮城米のPR活動を実施しています。多くの来場者やファン層への情報発信を通じて、宮城米の認知度向上と消費拡大を図る取組みです。

【東北楽天ゴールデンイーグルス】

オフィシャルスポンサーとして参画し、試合会場でのお米のサンプリング活動を実施することで、宮城米の魅力を発信します。

【ベガルタ仙台】

スタジアム内への看板掲出やCM放映、試合会場でのサンプリング活動に加え、選手寮への精米提供や冠協賛試合を実施し、幅広い層への宮城米のPRを行います。

【仙台89ERS】

スポンサー協賛に加え、ドリームキャラバンを通じて保育園・幼稚園・小学校でバスケットボール教室を開催し、参加者へパックご飯を提供することで、子どもたちへの食育と宮城米のPRを行います。

(3) 家庭用・業務用需要に対する宮城米の販促活動

生協、量販店、百貨店などの家庭用需要および中食・外食などの業務用需要に対し、取引先卸や実需者と連携した販促活動を展開しています。宮城米の認知度向上と販売網の維持・拡大を図るとともに、実需先への安定供給と消費拡大に取り組んでいます。

今後の対応について

(4) 県内大学生へのおにぎりサンプリング

大学生の朝食欠食改善と米食習慣の定着を目的に、県内大学と連携したおにぎりサンプリングを実施しています。

環境保全米ひとめぼれ、だて正夢、ササニシキを使用したおにぎりを配布し、米食の重要性や宮城米の魅力をPRすることで、若年層の米消費拡大と将来的な需要創出を図ります。

【実施校・実施予定日】

■宮城大学 (年4回) ・5月19日・7月10日・11月17日・12月4日

■東北学院大学 (年4回) ・4月15日・6月9日・10月20日・12月1日



(5) 県内スポーツ少年団への環境保全米PR

宮城県スポーツ協会、県内大学、パールライス宮城、宮城県中央会と連携し、環境保全米を活用した食育活動に取り組んでいます。

スポーツに励む子どもたちへの食支援を通じて、米食の大切さや県産米の魅力を発信し、消費拡大と米食習慣の定着を図るとともに、生産者の皆様が取り組む環境に配慮した米づくりへの理解促進と環境保全米の需要拡大につなげていきます。



(6) お米の学校バスツアー

田植え・収穫体験や、収穫されたお米が精米・出荷されるまでの工程を学ぶ機会を通じて、子どもたちやその家族に米づくりへの理解を深めてもらうとともに生産者の米づくりへの思いや、みやぎ米の魅力を発信し、食育の推進と宮城米の消費拡大につなげています。

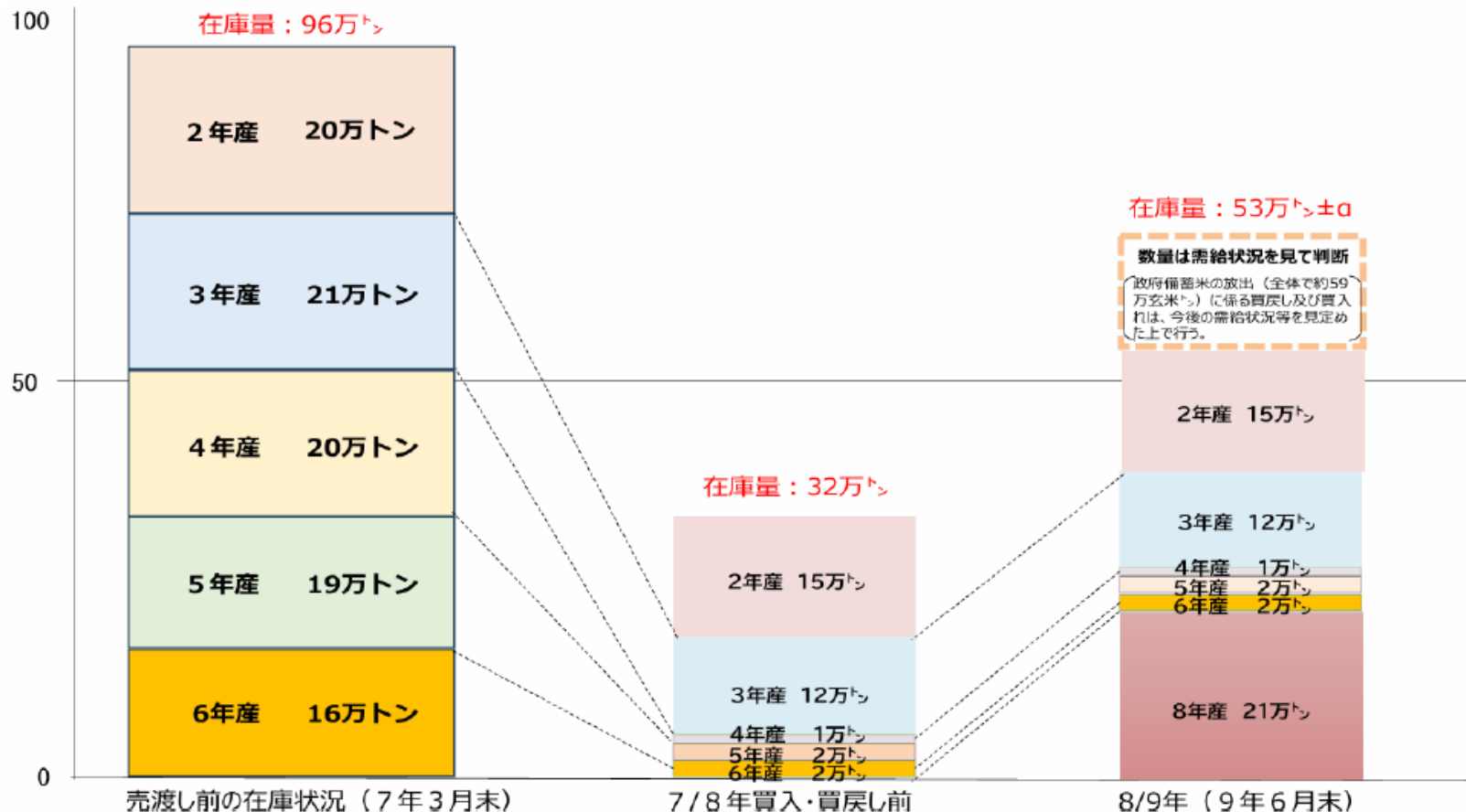


今後の対応について

3. 備蓄米買戻し

- (1) 本会は、全中と連携し、引き続き国に対して備蓄米の早期買戻しの実施を要請する。
- (2) 上記要請に当たっては、買戻し対象年産について、令和7・8年産のいずれでも実施できるよう国と交渉する。
- (3) あわせて、保管場所の確保を図るため、令和2年産及び令和3年産の備蓄米を飼料用として早期に販売するよう要請する。
- (4) 国が備蓄米の買戻しを公表した際には速やかに対応できるよう、売渡しに向けた準備を進めるとともに、対象数量の全量売り渡す。

【図表】政府備蓄米の在庫状況



（出典）
農林水産省「米の需給に
関するその他参考資料」
（令和8年3月）より

ご清聴ありがとうございました。

